

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 国語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原村学力調査の平均正答率は 64.2%で、全国平均（57.3%）を上回っているが、聞くことや書くことの正答率が低い。
- ・条件に基づいて書く問題において、無回答の割合が高い。（26.3%）

【課題】

- ・条件や文章の構成を考えて書くこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

(課題) 書く能力の向上

(具体的な授業改善策)

- ・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考え、意見文や作文を書くことができるようにする。
- ・構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・自分の考えをまとめられるようなワークシートの工夫（マッピング・構成メモ）
- ・自分の書いた文章について、構成の確認や推敲をするために ICT 機器を活用する。
- ・自分の考えを伝えるために、ペアやグループでの活動を行う。
- ・適切な言葉で自分の考えを伝えるために、授業の始めに漢字や言語などの知識・技能を学習する時間を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①自分で書くことが苦手な生徒に対しては、各項目や書き出しなどの支援ができる教材を用意し、取り組みやすいように工夫する。

＜検証方法＞

- ①授業内での提出物(作文や作品)・発表で検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 社会科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・正答率(55.9%)は、全国平均(52.9%)とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。
- ・社会科の予習をする生徒が 36.8%、復習をしている生徒が 57.9%と、予習・復習をする習慣が身に付いていない。
- ・社会的事象に対する興味関心は、ニュースを見ている生徒が 73.7%を占めている。

【課題】

- ・基礎・基本の徹底と、知識の活用

2. 課題改善に向けた取組状況

- (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容
・関連する項目の記載なし

- (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
- ・ 単元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。
 - ・ 定期的にニュースレポートを課し、ニュースを見る習慣の定着を図っている。
 - ・ プレゼンテーションソフトや動画を活用して、興味関心が高まるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①小テストを毎回の授業で実施して、前時の知識の定着をはかる。
- ②ワークシートに活用問題を採り入れる。

<検証方法>

- ① 2学期の評価で、「知識・技能」でAが付く生徒が30%を超えるかどうかで検証する。
- ② ワークシートに、自分の言葉で説明が書ける生徒が80%を超えるかどうかで検証する。（ワークシートの採点）

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

< 課題 >

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 数学科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・村学力調査において、問題の内容、領域、観点のすべて項目で全国平均を上回っている。
- ・村学力調査において「百分率」の内容が全国平均 60.4%に対して 60.5%と 0.1%上回っている。
- ・村学力調査において「比と比例・反比例」の内容が全国平均 63.6%に対して 65.8%と 2.2%上回っている。

【課題】

- ・数学的な知識や技能を活用する力や思考力・判断力・表現力の向上。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】数量についての技能

【具体的な授業改善策】

- ・数の表し方のしくみに着目して、数の相対的な大きさを考察させることで、数と式の表現や計算などに生かせるようにする。
- ・数を構成する単位から、相等及び大小について考察させることで、数の意味や表現を多様に考えられる機会を増やす。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・小單元ごとに小テストを実施し、基本的な知識・技能の定着を図っている。
- ・問題を解くだけでなく、根拠となる事柄を明確にして、それらを伝えられるようにする。
- ・ペアやグループで学び合うことで、知識や技能の定着を図るとともに、習熟度の差を縮める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①知識や技能を活用した問題や思考力・判断力・表現力を問う課題を多く取り入れる。

＜検証方法＞

- ①2学期の評価で、「思考・判断・表現」でAが付く生徒が35%を超えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和4年度の村の学力調査の結果、全校平均 62.3%に対し校内平均は 65.0%とほぼ同程度で概ね達成しているものの、記述による問題の正答率が低い。

【課題】

・設問に応じた形で身に付けた知識・技能を適切に活用する力を身に付けさせる必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・新しい単元の導入前に課題を提示し、既習事項やこれまでの体験や経験を踏まえて、学習前の課題に対する解答を行う。学習した後に再び同じ課題について解答し、学習前と後の解答の変遷を見とる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①項目ごとに課題を示し、それに対する解答をノートに記述させる。

＜検証方法＞

❶1学期の解答と2学期以降の解答を比べ、記述ができるようになっているかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの「授業に意欲的に取り組んだ」の項目で肯定的な意見が90%、あまりあてはまらないが10%となっている。その理由は「音楽が苦手」である。しかし「演奏などの活動に積極的に参加できている。」の項目での肯定的な意見は100%であった。

【課題】

- ・音楽経験・能力に個人差があり、個人で思考して表現する力。
- ・内容によっては、生徒が自主的に活動を進めること。
- ・実技を通して『できる』は実感できるが、座学の『わかる』の実感を一層もたせること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【各教科の課題】表現技能の向上

【具体的な授業改善策】

○音楽の良さを味わう中で技能を向上させる授業の推進

- ・互いの演奏を聴き合う中で、重なりの良い実感を、二部合唱の技能向上を図る。
- ・歌唱・合奏活動を通して、学び合いの場の充実、主体的に表現活動を行い、技能の向上につなげる。

【改善の評価】

○自然で無理のない声や二部合唱の良さを実感した児童が増加した。

△表現活動に個別指導が必要である。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ インターネットサイトを使った読譜練習と運指練習を、自分のペースで主体的に進める。
- ・ 振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。
- ・ 自分のパート音源を個別に聴きながら練習し、楽譜を読む、楽器で音を出す、音を聴いて確かめる、の3段階を生徒自身で進められるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。

②自分のパート音源を個別に聴きながら練習し、楽譜を読む、楽器で音を出す、音を聴いて確かめる、の3段階を生徒自身で進められるようにする。

＜検証方法＞

①練習毎に自己診断カードを記入させ、変容を見とる。

② クロームブックに各パートの音源を入れて、生徒がいつでも確認できるように環境を整える。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

〈課題〉

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業アンケートの授業への取組の項目では、肯定的な意見が100%なのに対して、定期考査に向けた取組は80%となっている。
- ・授業アンケートの「授業での、先生の見本やお手本はわかりやすかったか」という項目で、「あてはまる」と答えた人の割合が90%と特に高かった。「だいたいあてはまる」も含めると100%になる。

【課題】

- ・授業に対しての意欲が定期考査につながるように授業構成をすること。
- ・今以上に、視覚的な刺激を増やしていくこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【各教科の課題】表現を工夫して深める力の向上

【具体的な授業改善策】

様々な材料や用具の特徴を生かしながら主題を表す力を身に付けさせる授業の推進

- ・様々な材料や用具を総合的に工夫して使えるような題材の設定を図る。
- ・主題について導入やワークシートなどを工夫して、考えを深めることができるようにする。

【改善の評価】

○自分なりの考えや工夫を深めようとする姿勢が増えてきた。

△技能面については、個人差があるので個別指導が必要である。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・理論と実践は物事の両輪であると考え、「説明（理論）」→「実技」→「理論（定期考査）」という授業構成にしている。授業中に指導した「制作のポイント」に沿って評価をし、その説明をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①「実技」から「理論」に戻るところが弱いので、そのつながりをつくっていく。
- ②視覚的な刺激をもっと増やす。

＜検証方法＞

- ①毎授業での振り返りや、ワークシートに書かれた内容で検証する。
- ②机間指導で理解の状況を観察し、毎授業での振り返りで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 保健体育科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの「定期考査に向けて学習に取り組んだ」の回答は、あてはまるが85%、あてはまらないが15%であった。

【課題】

- ・実技分野や保健分野、体育理論分野での専門用語や実技分野の基本的な技能を習得すること。
- ・理解したことを運動場で発揮するために、試行回数をより多く保つための場作りをすること。
- ・仲間同士で伝え合い、聞き合うことで主体的に学習に取り組む態度を養うこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・各種の運動の楽しさや喜びを味わい、各自やグループの課題を見付け、その解決方法や活動を工夫する授業の推進
- ・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。
- ・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気付きを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。
- ・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・授業開始時に本時のねらいを伝えるときに、専門用語の確認と定着を図ること。
- ・技能のポイントを明確にし、それを保障する運動場面の時間確保をすること。
- ・技能のポイントを教員と生徒、生徒同士が伝え合い、聞き合う場面を設定すること。
- ・授業のまとめ時に生徒同士が授業の振り返り場面を持つことで次時へ学習の動機付けとすること。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業規律を保つことで、運動場面の時間を確保し、生徒の基本的な技能を定着させる。
- ②各単元の学習カードを作成し、知識の定着と振り返りを行い、生徒の主体的な学習へと繋げる。

＜検証方法＞

- ①2学期授業アンケートにおいて、「授業規律を守っている」「授業内容が分かる」の項目で90%を超えるかどうかで検証する。
- ②授業時に専門用語の確認をすること、定期考査での解答を理解の定着度として検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・今までの生活でのこぎりやげんのうを使用する機会がない生徒が 90%を超えていた。

【課題】

- ・工具も初めて見聞きするものも多く、慣れていないこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・動画を多く利用し、工具の説明や実際の使用方法を解説している。
- ・一人称視点の動画を作成し、実際に工具を使用しているところを疑似体験させている。
- ・工具の使い方を練習する時間をしっかり設けている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①動画を視聴し、工具を実際に使用する。

＜検証方法＞

- ①** 工具の使い方の練習をする授業を行う。その際に、
工具の使い方や、安全に配慮できているか、作業工程
の確認、作業精度を授業観察と製作物で判断する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

< 課題 >

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

-

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 家庭科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・家庭科の学習は、すべて自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。
- ・授業アンケートでは、「定期考査に向けた学習に取り組んだ」の項目で「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が35%となり、その理由が「5教科の勉強を優先した」「時間がなかった」となっているため、家庭での学習機会を増やすようにする。

【課題】

- ・小学校段階までの裁縫や調理の技能の確実な定着。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・家庭実践の機会を増やす。
- ・技能テストを行い、課題が達成できなかった生徒も個別指導をしていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①家庭で実践したことを踏まえた課題解決学習を行う。
- ②生徒の技能レベルを把握できるように技能テストを行う。

＜検証方法＞

- ①家庭実践レポートで行う。

「授業で学習したことを踏まえ、家庭で実践しているか」「調べたことを相手にわかりやすく伝えられているか」を評価規準として評価していく。

- ②基本の技能テストで行う（1年生は食分野のみ）。丁寧さ、適切さの基準を評価していく。ここでは早さは問わないようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 英語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度村学力学習状況調査では、校内正答率が全国平均を基礎 4.7%及び活用 11.2%上回った。しかし、アルファベットを聞いて選択する問題の校内正答率が全国平均より 7.1 ポイント低かった。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、授業内容を「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と回答した生徒が約 40%である。また「どちらかといえば得意ではない」「得意ではない」と回答した生徒が約 65%であった。

【課題】

- ・文法項目を用いた英作文及び読解問題への応用力。
- ・学習進度の個別最適化。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・新学習指導要領の実施に伴い、学習内容（語彙や文法等）が高度化した。そのため、先にリスニング及びスピーキングによるインプットとアウトプットの機会を多くし、表現に触れられる機会を増やす。その後、リーディングとライティングでのインプットとアウトプットに繋げ、知識の定着を図る。
- ・読解問題では、文法に関する問題及び内容読解についての解説を個の学習速度に合わせ、ICT 端末を活用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①小テストや単元テストの実施による基礎的な知識・技能の定着を図る。
- ②ICT 端末を活用し、文法や読解に関する問題への学習活動の個別最適化を図る。

＜検証方法＞

- ①単元ごと、文法単位ごとに小テストを実施し、定期考査との差分を測り、更なる改善を図る。
- ②日々の授業での聞き取りや授業アンケートの回答から、生徒の学習への取組状況から検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】